

平成30年 **4**月の大阪森林便り



今月の木の話

木は電気を伝えにくい

- ・木材には電気を伝えにくいという性質があります。
- ・鍋の柄にはカバ、ブラシの柄にはブナが使われますが、これは静電気を伝えにくいという木材の特質を活かしているのです。
- ・よく乾燥した木材の電気抵抗は、大理石と比べても遜色ありません。
- ・ただし、木材は水分を含むと急に絶縁性が落ちます。
(日本林業調査会「木材に強くなる本」より抜粋)



林業ガール 相棒はIT 消える男女別職種

- ・2065年の日本。15～64歳の生産年齢人口は現在より約3000万人減少し、6割弱の規模になるといわれています。
- ・周囲にレーザーを飛ばし、生えている木の位置や太さ、曲がり具合まで精密なデータを計測。林業向けIT（情報技術）システム開発のベンチャーが手掛ける作業。
- ・2015年の林業従事者は45,000人で、平成に入ってから半減。しかも従事者の9割は男性です。
- ・短時間で生育状況を3D地図で再現し、計測した森林データの分析は在宅でも可能です。森の中での作業のきつさがありますが、これまでのような腕力はいらず女性にも簡単です。
(2018年3月22日 日本経済新聞記事から抜粋引用)





北米産丸太 据え置き 3月積み対日価格

原木、集荷順調

- ・北米産丸太の3月積み日本向け価格の交渉が前月と同水準で決着しました。
- ・丸太の品薄感が和らぎ2か月連続で据え置きとなりました。
- ・原木の集荷が順調に進み、船積み遅れが解消しました。
- ・米松丸太の商社売値は前月比1%上昇。運賃上昇を反映しました。

(2018年3月7日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



針葉樹合板、値上がり 国産、公共施設向け堅調

杉など丸太高も影響

- ・国産の針葉樹合板が値上がり。2月末に比べ2%上昇しました。
- ・原料となる杉や桧の丸太の値上がり。
- ・需要は堅調。非住宅分野向けの構造用合板の引き合いが伸びています。
- ・1月の出荷量は前年同月比7%増。
- ・合板などに使う中目用の杉丸太は前年同月比で1%高く、11か月連続で前年水準を超えました。ヒノキ丸太は前年同月比5%高で、5か月連続で前年を上回りました。
- ・1月の生産量は前年同月比8%増え、伸び率は出荷を上回ります。

輸入合板も上昇 原木伐採進まず

- ・輸入合板も値上がり。前月比2%上昇。
- ・1月の普通合板の輸入量は前年同月比11%減。最大産地マレーシアからは前年同月比22%少なくなっています。

(2018年3月13日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



カナダ産製材品1割高 4～6月対日価格

品薄で過去最高

- ・ツーバイフォー住宅に使うカナダ産製材品の日本向け価格が一段高。前四半期に比べ10%上昇し、過去最高。前年同期と比べても3割上昇しました。

(2018年3月16日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



マレーシア産丸太、輸出枠さらに削減か

値上がり続き感心高い

- ・マレーシア産丸太の輸出量が一段と減るとの観測。主産地サラワク州で7月にも丸太の輸出枠を、現状の伐採量全体の2割から1割に削減し、2018年には原則丸太輸出が禁止されるという内容。
- ・サラワク州産丸太の2017年の輸入量は前年比24%減。2007年の10分の1以下。価格も1年間で5%上昇し、1993年以来の高値。
(2018年3月30日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

